



No.91 2020.11.27

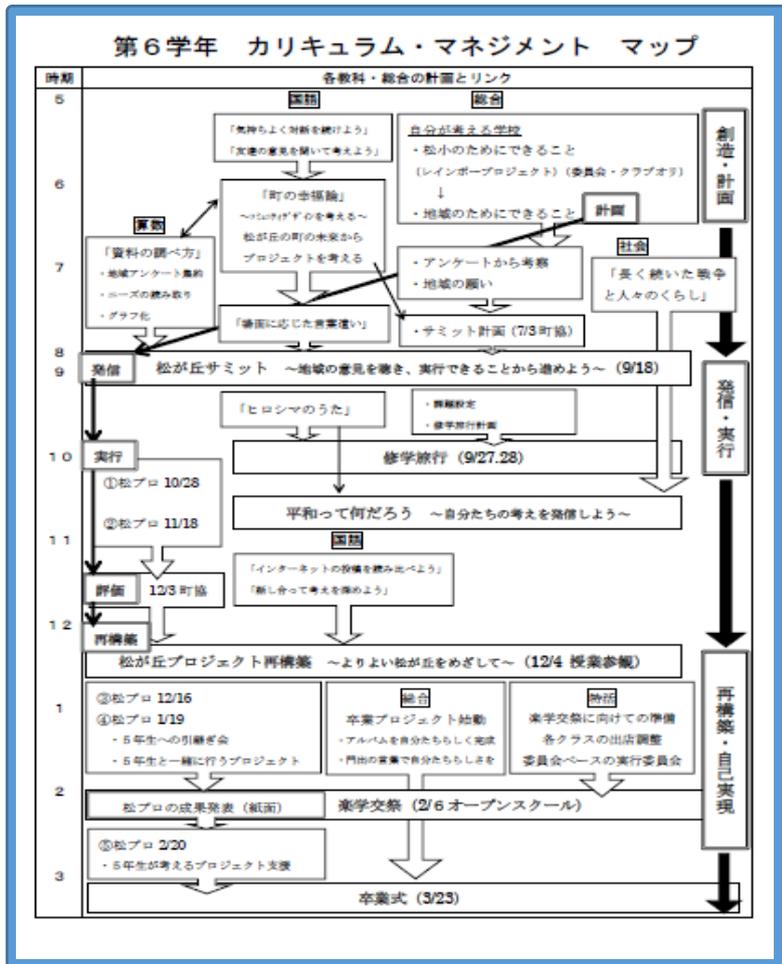
明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクス

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

松が丘プロジェクト進行中



9月18日(土)のオープンスクールで開催された「松が丘サミット」において6年生の子どもたちと地域・保護者の方との対話で練られた松が丘プロジェクトが、コロナ禍でいろいろと制限がある中ですが、地域の皆さん、保護者の皆さんと一緒に地域の中で進行中です。今年度は松が丘プロジェクトをすすめながら、「カリキュラム・マネジメント マップ」を見直し12月に再構築を行うようです。10・11月の松が丘プロジェクトの中で考え・感じたことをもとに再構築するという機会は子どもたちの主体性を高めることにつながるのではと考えます。そうしたことを積み重ねながら卒業に向かっていくのか楽しみです。

10月松が丘プロジェクト



11月松が丘プロジェクト



子どもたちの活動の様子を見に行くと決して黙々とやっているという感じではなく普段通りおしゃべりをしながら、普段通りリラックスした感じで行っています。そんな6年生を見ながら公園で遊んでいた3年生の

子どもたちも、地域の方と一緒に落ち葉拾いをしているのを見るとほのぼのとしてしまし



た。そして地域の方から「ひと月、見いひんかったら、大きくなったのにびっくりした」と声をかけていただき、子どもたちを見守っていただいているありがたさを改めて感じました。

また、ある自治会の掲示板に子どもたちの写真が載っている回覧が貼ってあったので地域の方に聞いてみると高齢で一人暮らしの方の庭の草抜きを子どもたちが手伝ったとのことでした。

子どもたちが地域の中で活躍している話を聞き、こうした経験を積み重ねの中で自分が社会とつながりながら生きていることを感じ、そこからいろいろなことを気づき考えることができるようになるのだろうなと感じました。こうした機会をそっと作ってくれる地域の方に感謝です。こうした活動が一般化するのには難しいですが、身近な地域の中に様々な課題があることに気づき、身近なところからできることを行動していくことが変化を起こし、課題解決に向けての動きを創っていくチェンジメーカーを育てることにつながっていくと考えます。

そのためには、これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、広く社会と共有するための対話を重ねることにより、子どもたちのチャレンジできる場が広がっていくと考えます。そうした仕組みが明石のコミュニティ・スクールです。

探究型プロジェクトにむけて



新学習指導要領が目指す「未来の創り手となる資質・能力を育む」ためには探究型プロジェクトが欠かせないと考えています。現在、キャリア教育 シティズンシップ教育 主権者教育 消費者教育 国際教育 食育 金融教育（金銭教育） 租税教育 住教育 法教育 福祉教育 いじめ防止教育 日本の伝統・文化理解教育 環境教育 森林環境教育 安全教育 防災教育……等様々な教育課題が学校現場に求められています。それらを一つ一つ取り扱っていかうとされているのが現状ではと思います。別々に扱うのではなく、ESD 概念図にあるよう関連する様々な分野を“持続可能な社会の構築”

の観点からつなげ、総合的に取り組むという視点が必要になってくるのではと考えます。そうした視点での教科横断型プロジェクトが松が丘小の「松が丘サミット」であり、和坂小の「桜守プロジェクト」ではと思います。そして、「桜守プロジェクト」は樹木医さん等との連携など STEAM 教育といえる学びの場となっているのではと思います。今各校で行われている活動をつないで考え、体験・体感を重視し、探究や実践等具体的な行動につなげてデザインする中で教科横断型プロジェクトが生まれていくのではと考えます。

「桜守プロジェクト」ではどんな活動？

和坂小学校の環境体験はこれまで明石公園をフィールドに四季を通じて樹木の観察を行ってきましたが、明石公園の樹木はどちらかというと常緑樹が多く、四季の変化を感じ取りにくいということを感じておられたようです。そこで教師のアンテナに引っかかってきたのが明石公園で桜守の活動をされている桜守ボランティアさんで、桜守ボランティアさんから明石公園のソメイヨシノ、日本のソメイヨシノが抱える課題に出会ったようです。

単元構想をみてもソメイヨシノを素材にした環境体験をベースにしながら学びの広がりや、ESD 的な発想で環境学習から社会的課題へとつなげて学習できるデザインをされているように思います。

和坂小「新たな単元構想～和坂っ子桜守プロジェクト～ 参照抜粋

**3年総合的な学習の時間
環境体験事業**

**新たな単元構想
～和坂っ子桜守プロジェクト～**

明石市立和坂小学校

「学習素材」としてのソメイヨシノ

四季を移ろいから様々な学習要素がある
●春→満開の花 ●夏→毛虫!? ●秋→紅葉 ●冬→冬芽

「学習素材」としてのソメイヨシノ

四季を移ろいから様々な学習要素がある
●春→満開の花 ●夏→毛虫!? ●秋→紅葉 ●冬→冬芽

身近な生活圏のどこにでもある素材
●明石公園「日本さくら名所100選の地」から…
●生活圏の学校、公園、神社、店舗、工場、街路、個人宅…

人とのつながりが見えやすい素材
●人の手によって誕生した品種 …… 願い、情熱、創意工夫、秘話
●人の手によって守られている存在 …… 共生、有用感

環境学習としての視点

① **自分たちの手によって守る活動**
●剪定作業…新しい枝が伸びる
●土壌改良…根がしっかりと張る

② **自然に近い環境に近づける**
●ダンゴムシやミミズの活躍

共生の視点

環境学習＝いのちのつながりを知る、体感する学習

展開イメージ

project:企画・立案

Presentation-1: 対象:教職員
●活動内容の周知 ●一定期間の継続体制 ●今後の活動展開の拡がり

Presentation-2: 対象:公園管理事務所・樹木医・支援者 etc…
●活動内容の周知 ●ガイドラインの設定 ●役割分担・確保

Presentation-3: 対象:まちづくり協議会・保護者 etc…
●活動内容の周知 ●応援力の確保 ●地域展開の可能性

study:環境学習

Area-1. 明石公園 (年4回)
①桜の観察、現状を知る ②土壌の観察 ③桜守の活動Ⅰ ④桜守の活動Ⅱ

Area-2. 学校
●校内樹木の生育状況調査(主に土壌) ●出前講座:樹木と生き物たちの共生活動

Area-3. 地域展開
●和坂小学校区のさくら名所マップ ●訪問インタビュー ●ソメイヨシノ保護の啓発

culture:文化

Ex-1. さくらに愛着をもつ活動
○さくら"Art"活動(押し葉アート、剪定枝の工作、ちぎり絵 etc…)
○さくら"Eat"活動…!?

Ex-2. さくらでつながる活動
○さくら絵手紙交換(地域の方々、活動支援者と)
○さくら名所マップ(校区内の桜名所を発信)
○さくらマルシェ/さくらフェス(まちづくり協議会とコラボ)

コミュニティースクールの可能性

action:行動

Act-1. 桜守の活動 @明石公園
◆剪定作業 ◆土壌改良 ◆周辺整備 ◆落ち葉のプール ◆生簾展開

Act-2. 和坂小の樹木調査隊の活動 @校区内
◆校内の桜の本数、元気度調査 ◆校内の田まわりの土壌の調査
◆落ち葉のプール/落ち葉回収、腐葉土化)→生簾裏の観察(ヒートマップ)

Act-3. 地域展開の活動 @校区内
◆校区内の桜の分布調査 ◆校区内の桜の元気度調査
◆個人宅桜のエピソード調査(訪問インタビュー) ◆地域への発信、啓蒙活動

community:地域展開

明石公園から和坂小学校区へ活動展開

●ソメイヨシノについて
●明石公園のソメイヨシノの現状
●桜の保護【桜守の活動】

●校区内のソメイヨシノの分布
●地域の方々と桜守の活動
●ソメイヨシノへの思い、想い出

●見守る(See)
●見える目(Look)
●見つめる目(Watch)

●ふるさとに
●愛着を持つ和坂っ子

study:カリキュラム・マネジメント

●ソメイヨシノについて調べると…起源、特徴(春の満開、秋の落葉)、現状(樹幹低下)
●明石公園のソメイヨシノから見える歴史的な背景…70余年前の明石、日本、世界
●桜守の活動について知る…全国展開している桜守活動、樹木医の仕事
●まちたんけん…校区内の桜分布、桜の育成状況や環境、和坂さくら名所マップ
●共生の学習…桜と桜守、桜と虫や鳥などの関わり、桜と環境・人・地域
●ソメイヨシノをフィルターにして地域の良さ、これから考える学習

国語、社会、理科、道徳、図工、音楽、情報、キャリア…
横断的・多様な学習展開の可能性

collaboration:協働・連携

明石公園管理事務所
NPO法人兵庫農樹木医会
桜守ボランティア
西の緑保団(川島孝次氏)

和坂まちづくり協議会
和坂小CS学校運営協議会

●明石公園での活動支援
●桜守活動の展開

●明石公園での活動支援
●地域展開活動支援
●和坂小CS推進の展開

●明石公園での活動支援
●地域展開活動支援
●和坂小CS推進の展開

「桜守プロジェクト」は現時点では教師が主体で構成する「構成型プロジェクト」ですが、こうした単元構想を積み重ねることが、子どもたちどんどん主体となっていく、「一部構成型プロジェクト」、「非構成型プロジェクト」へと発展していくのではと考えています。

和坂小で「桜守プロジェクト」で学習したことがベースとなり、何気なく見ていた身の回りの自然に関心をもち、自分からかかわっていく子がでてきたらいいなと思います。そんな力を養っていくことが求められているのだと思います。

そんな「桜守プロジェクト」の最新情報が届きましたので紹介させていただきます。



3年環境体験
わかっこ桜守プロジェクト

校内での活動②

明石公園の土の ひみつにせまる！

2020.10.30.Fri

明石公園の活動で...

この土の正体は？

- 真っ黒
- ふかふか
- さらさら

いったい
「落ち葉のプール」の中で
何が起きているのかな？

のぞいてみよう！

「落ち葉のプール」
の中をほってみると...

落ち葉の下は、
あのひみつの黒い土！

落ち葉が くさって 土になる

この土の名前は...

ふ よう ど
腐 葉 土

くさった はっぱ つち

そして、
いきものがいっぱい！

カブトムシのよう虫
ミミズ

どうやら、
この黒い土はいきものを
元気に育てる力が
あるみたい！

えいよう+みず

たべもの

たすけあって、いきている
きょうせい
共生

ともに いきる

和坂小学校の運動場の
クスノキは ミミズたちと
助け合っているのかな？

今から、
地面の中を
のぞいてみよう

3年環境体験
わかっこ桜守プロジェクト

校内での活動③

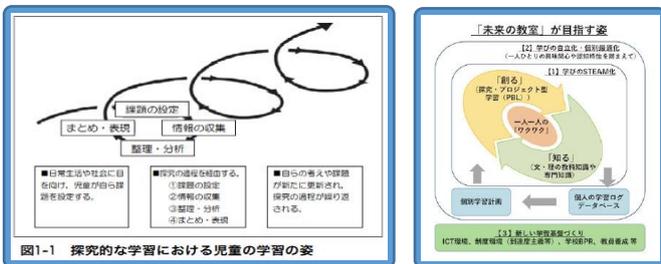
桜のカルテをつくろう！

■サポート隊

- ・明石公園桜守ボランティアの会【7名】
 - ※樹木医(2)
 - ※樹木医補(1)
 - ※ボランティア(3)
- ・和坂まちづくり協議会【3名】

2020.11.13.Fri

子どもたちは樹木医さんを中心にボランティアさんから桜の観察の仕方を含め、桜を取り囲む環境等の話を聞きながら、それを実際に確かめてみる学びを繰り返しています。それは文科省の「探究的な学習に



における児童の学習の姿」であり、経産省の「未来の教室」が目指す姿と重なってきます。子どもたちが桜守プロジェクトで身近な桜に関心を持ち、そこから新たな課題に目を向けるだけでなく、保護者・地域の方にも「桜守プロジェクト」を開くことにより、

地域の桜を通して人がつながり、新たなまちづくりの視点を持つことにもつながっていくのではと思います。

こうしたプロジェクトを立ちあげ、保護者・地域の方にも開いていくことで、保護者・地域の方が支援者としての役割から、子どもたちと共に学ぶ探究者となり、学校が地域の中での生涯学習の場となっていくことにつながっていくのではと思います。桜守プロジェクトも、桜を通して地域の自然の探究が地域の方の学びの楽しみにつながっていけばいいなと思っています。

今、魚住まちづくり協議会さんのLINEで魚住小の3年生の金ヶ崎公園での環境体験の様子が届きました。10年以上続く金ヶ崎公園での環境体験で、かつてはくすのきプロジェクトとリンクしていた活動です。今後、どのように地域に受け継がれていくか楽しみです。

まち協さんによるLINEでの情報発信も広がってきているようですが、どんどんコミコミスクスクにも情報を寄せていただけたらいいな、そしてこうした各校の取組が交換できたらと考えています。

(文責:北本)